

令和元年度 南アルプス市立若草南小学校 前期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校長 河野 瑞穂

学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校 笑顔あふれる学校

〔育てたい児童像〕 ふるさとを愛する児童の育成 人の痛みがわかる学校 < 若南プライド >

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

〔学校経営の重点〕

1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(反復繰り返し、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。
(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の進展を図る。
(協働的学習体制の充実、外国語教育の充実)
- (4) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用、ICTの利活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。
(体験的活動、地域教材・人材の活用、ICTの利活用)
- (5) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (6) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。
(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)

- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)
- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。
- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
・場に応じた言葉使いができる。(丁寧な言葉遣い・きれいな日本語)
・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。(無言清掃(黙働清掃))
- (9) 人間尊重の精神，社会生活上のルールなどの倫理観，夢や生きがい感の醸成を図る。
(まごころと思いやりの心 キャリア教育の充実)

3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 教育活動全体を通して、学校安全について実践的な指導を行い、日常の実践化を図る。
- (2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。
- (3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。
- (4) 体力向上に向けて、充実した体育の時間・遊びの時間の確保，スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

- (1) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を図り，指導の充実に努める。
- (2) 一人ひとりのニーズに応じた適時・適切な指導・教育相談に努め，また，地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。
(サポートルームわかくさ)
- (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し，その活用を図る。

5 連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。

- (1) 全教職員の総力・創意を出し合い，連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。
- (2) 教育公務員としての自覚を持ち，厳正な服務規律の確保に努める。
- (3) 保護者や地域との連携・協力を大切にした教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)
- (2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い，地域を誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用，地域活動への積極的な参加を推進する。
(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)
- (3) 積極的な情報発信に努める。(開かれた情報公開)

【評価方法】

児童，教職員に対して，アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

A：そう思う

B：ほぼそう思う

C：あまりそう思わない

D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

○「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）

○「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

1 第1回児童アンケートの考察

【全体的な傾向】

全10の質問項目中、肯定的評価が90%以上の項目が7、80%以上の項目が2、77.2%の項目が1であり、全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。しかし、肯定的評価の「そう思う」の割合と「ほぼそう思う」の割合では、「そう思う」が80%以下である項目がみられる。次の6つの項目については課題があるととらえ、指導の改善を図っていききたい。

1の項目「学校へ行くことが楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、94.2%と肯定的な評価は高い。肯定的な回答の中で「そう」は70.5%、「ほぼ」は23.7%であり、あまりそう思わない3.5%、そう思わない2.2%と回答している。すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

4の項目「学校の授業がわかりますか」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童の肯定的な回答は97.1%であり、概ね満足できる結果である。「そう」の割合は78.5%であり、否定的な回答は2.9%という結果であった。日ごろの授業改善が効果を上げていると思う。今まで以上に授業改善に努力し、特に否定的な回答をした2.9%の児童に対し、授業がわかり楽しいと感じられるように、基礎基本を大切に授業を展開していききたい。TTや教育ボランティアの活用についてもさらに研究を深めていきたい。

7の項目「家庭で宿題や自主学習を自分から進んでしていますか」について

肯定的な回答は、77.2%であり「そう」の割合が52.6%、「ほぼ」の割合が24.7%であり、全項目の中で一番低い数値である。学力向上と家庭での学習の時間には相関関係があると言われている。家庭学習の取り組みは喫緊の課題である。県教委からの指導や保護者への協力を含め、児童が自ら進んで学習に取り組めるよう研究を進めていきたい。

8の項目「困っただれかに相談できますか」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。肯定的な回答は83.0%であった。「そう」の割合は全校で55.4%である。否定的な回答は17.0%見られる。誰にも相談できない児童がいることのないように、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

10の項目「いじめや悪いことをしている人を見たら、先生や友達に言えますか」について

いじめの未然防止や早期発見の一つに、児童からの情報提供がある。87.5%の肯定的回答があったが、12.5%の児童は否定的な回答をしている。友達と仲よく学校生活を送ることができるよう、日ごろの生徒指導の充実に心がけ、さらにいじめにつながるような行動を見付けた場合はすぐに相談できるよう、全教職員がいじめは絶対に許さないという毅然とした態度を持ち、一人一人の児童に指導していきたい。

2 第1回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

I 学校生活についての質問

「子どもたちが、楽しく学校生活を送れる」については、「そう思う」の割合は児童の方が高い。子どもたちが、学校は楽しいと思えば通学することは学校・保護者・地域の共通の願いである。マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、すべての児童がプラス評価になれるよう努めていきたい。

II 学習指導についての質問

「児童を授業に集中させるための指導」では、「そう思う」の割合が「61.9%」であった。分かる授業の展開と児童の学力向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。学校の授業が分かりやすかについて否定的な回答をした2.9%の児童にしっかりと目を向け、校内で共通理解を計り、一人一人の授業改善を進めていきたい。

III 家庭学習についての質問

「家庭学習を定着させるための工夫」では、「そう思う」は38.1%であり、マイナス評価は「4.8%」であった。児童の評価も大きな課題がみられている。家庭学習強化週間の取り組みなど、保護者への協力は必要不可欠である。全校での取り組みや学年・学級での取り組みをさらに進め、家庭学習の定着を進めていきたい。

IV 生徒指導についての質問

さまざまな諸課題があり、その都度校長を中心とし組織として対応してきた。これからも、報告・連絡・相談を密に行い、管理職・生指担当・コーディネーター等を中心とし、チーム若南として対応にあた

っていきたい。

V 学校経営についての質問

1学期の教育活動をふり返り、いくつかの面では文章の偏りはあるものの若草南小学校の学校運営は概ね満足できる教育内容であったと思う。これからも、縦と横の連携を十分に図り若草南小児童の健全育成のために、一致団結して教育活動に取り組んでいきたい

VI 学校行事についての質問

行事については、日程調整から計画・立案と各担当や教務主任との連絡調整が重要である。行事の目的をしっかりと見据え、無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

VII 校内研究についての質問

教育委員会や教育センターの指導・協力の下で「ICT教育」を進めてきた。時代の流れの中で、児童に身に付けさせていきたい重要な力の一つである。私たち教師に課せられた大きな課題でもある。研究主任を中心に、市の先進校的な役割も含めて研究を進めていきたい。

VIII 施設・設備・安全管理についての質問

児童が安心して通える学校は当たり前姿である。しかし、昨今の報道等で見られる凶悪犯罪や交通事情は、いつどの地域で起きても不思議ではない。また南海トラフによる大災害も想定されている。定期的な訓練や安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導にあたりたい。また、保護者や地域住民の協力も欠かせない。見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていきたい。

IX 学校と家庭との連携についての質問

学校と保護者が共通理解を計り、同じ歩調で進むことが望まれる。その意味では、先生方が保護者との信頼関係を築き活動できたことは高く評価できる。さらに管理職との細かな報告・連絡・相談が行えており、組織としての対応がしっかりと行えた。

3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、課題となっていることがある。それらをまとめると、次のようなことになる。

【学校生活について】

○学校が楽しいと思わない否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、児童一人ひとりをしっかりと見守っていきたい。困ったときに誰かに相談できることを、全職員で共通理解を図りながら指導にあたりたい。

【学習について】

○基礎基本の定着や授業に集中させるための授業指導については高い評価を得られた。発言または意見を言うこととあわせて友だちの意見をしっかりと聞き学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気の学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。校内研究会の充実とともにさらに授業改善を図っていきたい。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大切な役割がある。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。日々の取り組みや、家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習を充実させていきたい。また、児童よりも教師側の評価が低い。学校の取組だけではなく、保護者の理解を深め今まで以上に協力を求めている。

【生徒指導について】

○困ったときに相談する友達がいることは、いじめの未然防止や早期発見に大きな役割を果たす。また、保護者からの情報提供も大きな役割を果たす。さらに、学校のきまりや約束を守ることの指導は、いじめや非行行動に対する未然防止につながっていくと考える。児童会や学級会のきまりなど、児童は学校生活の中でさまざまなきまりを守りながら社会性を身につけている。すべての教育活動を通して、困ったときには誰かに相談すること、きまりや約束を守ることの大切さについてより一層重点をおき指導にあたりたい。また学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。

以上のような課題から、今後若草南小学校で取り組む重点項目を次のようにまとめた。

○『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・児童会などの取り組みを活かし、学年や学級での活動を更に充実させ、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、活動の振り返りを行っていく。

○『学力向上』に努める。

- ・基礎基本の定着を図り、「分かる授業」を進めていく。
- ・授業の中で、聞く態度の育成や発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・チームティーチング（複数教員による授業）や教育ボランティアの活用を今まで以上に充実させていく。
- ・「家庭学習」のさらなる充実を図る。
- ・学年や学級単位で、ミニ強化週間を設け家庭学習の定着を図る。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・いじめ撲滅宣言などの取り組みを、全校で進めていく。
- ・いじめのない学級づくりの取り組みを、保護者に伝えていく。
- ・困ったときなど、誰かに相談できる人間関係づくりや雰囲気づくりに努めていく。

